

個別事業(取組)評価				
事業No.	19	施策の柱への位置付け	柱③ 幼児教育改革	
事業名称	親育ち支援啓発事業		担当課	幼保支援課
			当初予算額(千円)	2,032
			補正後予算額(千円)	1,469
			決算額(千円)	1,406

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状 (課題) とその要因	【現状】 ◆ 子どもへの接し方が分からなかったり、子育てに不安や悩みを抱えている保護者が多い。 ◆ 乳幼児期の子どもを持つ保護者は、子どもへの期待や関心が高い。 ※平成21年度の事業実施後のアンケート結果	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 現状分析の結果については、9月に実施した中間点検・評価等で定期的に検証を行っている。
		【要因】 ◆ 核家族化や少子化、都市化等による人間関係の希薄化等、家庭・地域を取り巻く環境が変化 ※平成17年国勢調査(総務省統計局)	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 要因分析の結果についても、9月に実施した中間点検・評価等で定期的に検証を行っている。
②	目標 (Outcome)	◆ 親の子育て力を高めて、より良い親子関係の構築を促し、子どもの健やかな育ちにつなげる。 【目標数値】 ・保護者の講話後のアンケート「子どもへの親の関わりが大事」と答えた割合が100% ・保育者の研修後のアンケート「今回の研修が参考になった」と答えた割合が100%	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成21年度事業実績に基づく目標設定であり、達成可能であると考ええる。 エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>) ◆ 保護者への講話後のアンケート ・「子どもへの親の関わりが大切」100% ・「講話等は心に残ることがあった」「またこのような会に参加したい」97% ◆ 保育者への研修後のアンケート ・「今回の研修が参考になった」では99% ・「またこのような会に参加したい」100% ◆ 実施園数と参加者数 ・保護者への支援 70園(1,967人) ・保育者への支援 43園(635人)
		【検証(比較)方法】 ◆ 参加人数及び実施園数(保護者と保育者) ◆ 事業実施後の保護者や保育者からのアンケート	
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 保育所や幼稚園等で、保護者を対象に教育的な観点から子どもの育ちと大人の関わり方の講話や子育て相談→60回実施 ◆ 保育者等を対象とした保護者支援力向上のための研修→40回実施	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 保護者への支援 71回 ◆ 保育者への支援 44回 ※ その他(民生委員や婦人会等地域の方への支援) 9回(676人)

総合評価 と 今後の方向	目標達成度 C 「No」を選択した項目 工	【今後の方向】 ◆ 平成22年度は9市町村が新規実施、また実施園のうち新規園が69.7%を占めるなど、親育ち支援の取組が広く浸透しつつある。しかし、9町村が全施設で実施した一方で、未実施のところも9市町村ある。地域や施設間により取組に差があるので、市町村訪問や園長会での呼びかけ、園への訪問などの機会を捉え働きかけを行う。 ◆ 2人体制を活かしてより多くの要望に応じ、親育ち支援の更なる浸透を図る。
	【総合評価】 ◆ 緊急プランの目標値(親支援60回・保育者支援40回)を大幅に超える取組を推進することができた。また、自由記述のアンケートにおいても、保護者からは「いい講話を聞いて頑張る力が出了」「講話で聞いたことを早速試したら子どもが変わった」、保育者からは「保護者の見方が変わったり保育を反省した」などの感想が出され、高い評価が得られた。 ◆ 支援を行った保護者や保育者に、大変好評であった。子育て・親育ち推進監と親育ち支援アドバイザーの2人体制で、土日、夜間も講話や相談を行うなど、多くの要望に応えることができた。	